

第28回 企業交流会 エスケー石鹼(株)/NMS 研究会のご案内

【強い技術者を生むためのエコシステムーNMS 研究会・エスケー石鹼における品質工学の実践】

第28回企業交流会を品質工学の研究で大きな成果を上げているエスケー石鹼と品質工学の実践者の集まりであるNMS研究会の協力のもとに開催いたします。今回は、技術者の相互交流を高め良好なエコシステムを構築するための取り組みとして、企業の中における品質工学の研究のあり方、さらには企業の組織のあり方について、実践例の発表と討論を行います。

参加を希望される方は必要事項記入の上、FAXにて事務局までお申し込みください。後日参加券をお送りしますので、当日受付に御提出ください。非会員の方の参加は事務局にお問い合わせください。

訪問先企業	エスケー石鹼(株) 川口工場 埼玉県川口市領家 5-9-9 協力：NMS 研究会 集合時間 (1)工場見学希望者：川口駅 9：30 (2)上記以外の参加者：川口総合文化センター・リリア大会議室 10：00 受付開始
日時	2017年3月17日(金) 10:20～17:00 (工場見学希望者は9:30～17:00)
プログラム	9:50 エスケー石鹼(株)川口工場見学 (工場見学申込み先着20名対象) 10:20 DVDによるエスケー石鹼(株)のバーチャル工場見学 (工場見学なしの参加者対象) 11:20 開会挨拶 (エスケー石鹼(株), 品質工学会) 11:30 講演「強い技術者を生むためのエコシステムーNMS 研究会における品質工学の実践ー」 (NMS 研究会 矢野宏) 12:00 昼食 12:45 壇上発表 (1) マクロ視点のためのエコシステムの構築 (NMS 研究会 上杉一夫) (2) バーチャル・パラメータ設計を通じたエコシステムへの取り組み (コニカミノルタ(株) 埴原文雄) (3) 開発プロセスの俯瞰ーハミガキ剤の開発ー (エスケー石鹼(株) 秋元美由紀) (4) 製造段階での工程全体の俯瞰ー組立工程の設計 (株)松浦機械製作所 青木規泰) 15:00 パネルディスカッション 「強い技術者を生むためのエコシステム」 司会：吉原 均 (NMS 研究会) パネリスト：講演者、壇上発表者 16:50 閉会挨拶 17:10～18:40 懇親会 (ラウンジリリア)
定員	50名 (非会員の場合は、事務局にお問い合わせください。)
締切日	2017年3月3日(金) ただし定員になり次第締め切ります。
参加費	会員9000円 (懇親会は別途料金) 請求書送付・事前振込をお願いします。
申込先	品質工学会事務局 FAX. 03-6268-9350 TEL. 03-6268-9355

FAX.03-6268-9350 (一社)品質工学会事務局 行 <第28回企業交流会 申込書>

フリガナ 氏名	勤務先
会員番号	所属
参加券送付先 (非会員の方は住所をご記入ください。会員の方は学会誌送付先に送付します。)	
□□□□-□□□□ (郵便番号は必ずお書き下さい)	
TEL.	FAX.
工場見学 (いずれかを○で囲ってください) 参加する ・ しない	懇親会 (いずれかを○で囲ってください) 参加する ・ しない

第28回企業交流会の概要

事例発表の概要

品質工学会では、マクロ視点による技術開発を議論してきた。製品やシステムの高度化、多様化により、技術者自身の専門スキルの向上や専門家集団の組織化が必要になる一方で、専門家個人や組織間のコミュニケーションが減ってくると、他者、他の組織に対する状況の把握ができなくなり、自分（自組織）の論理のみで業務を進めようとする事になり、技術開発が部分最適に陥ってしまいかねない問題を孕んでいる。

高度な専門化社会で陥りがちなマイクロ視点の蔓延をさけるために、良好な(1)人間関係でのつながり、(2)テーマによるつながり、(3)研究関連でのつながり、(4)評価方法でのつながり、すなわちエコシステムの構築が不可欠であり、そのための必要条件は企業のトップ・ミドル・ボトムがテーマの価値を共有することである。個を成長させるには、場の設計が必要であり、実践訓練する場の提供、モデルとなる他の会社、他組織の人との交流を積極的に行う場の設定が重要である。エコシステムの構成員である技術者自身が持つべき能力は「つなぐ力」であるといえる。

良好なエコシステムを構築するための取組みとして、研究会のあり方、さらには企業の組織の中でのあり方を、実践例を通して追究したい。

「マクロ視点のためのエコシステムの構築」

(NMS研究会 上杉一夫)

複数の事例のつながりを検討することでエコシステムの構築がマクロ視点での実践に重要であることが、研究発表大会やNMS研究会での議論を通じて見えてきた。研究発表大会の評価セッションでの論説を紹介し、エコシステムについて議論したい。

「バーチャル・パラメータ設計を通じたエコシステムへの取組み」

(コニカミノルタ(株) 埴原文雄)

2009年に電子写真プリンタのトナーカートリッジの交換性評価(ユーザービリティ)に始まった弊社のバーチャル・パラメータ設計は、その後、照明器具の商品企画(構想検討, 2012年)、電子写真プリンタのシャッター機構設計(小規模メカ設計, 2015年)、電子写真プリンタの画像形成システム設計(大規模システム設計, 2016年)と活用の幅を広げながら進歩してきた。

その流れの中で培われた、評価の効率化、暗黙知、個人知の共有化による組織活性化、若手育成、全体最適化への取組み等を紹介する。

「開発プロセスの俯瞰—ハミガキ剤の開発—」

(エスケー石鹸(株) 秋元美由紀)

中小企業である当社では各段階を基礎研究、商品企画、製品設計、工程設計を専門に取り組み部署はない。チューニングによる製品設計に偏りがちであった開発プロセスを見直し、上流から研究に着手しハミガキ剤を開発した事例を紹介する。

「製造段階での工程全体の俯瞰—組立工程の設計」

((株)松浦機械製作所 青木規泰)

機械組立時の摺り合せ工程から出荷までにある数多くの工程は全て作業員によって行われている。バーチャルパラメータ設計によって、作業員能力評価、教育への展開、従来工程の問題点の発見、上流工程である設計へのフィードバックが可能であることが明らかになった事例を紹介する。